

女子戦評

大会名 第67回全日本バレーボール高等学校選手権大会 青森県代表決定戦

日時 平成26年11月8日～9日

会場 青森市民体育館

女子決勝（11月9日）

弘前学院聖愛高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 13 \\ 25 - 16 \\ 25 - 16 \end{array} \right\}$ 0 五所川原商業高等学校

ファーストレフリー 新岡 勇士

セカンドレフリー 岡村 尚文

10年連続12回目の選手権大会出場を目指す弘前学院聖愛高等学校（以下聖愛）と13年ぶり3回目の出場を目指す五所川原商業高等学校（以下五商）の対戦。第1セット序盤、聖愛はブロックとリズムの良い攻撃で主導権を握る。五商も長谷川の連続サービスエースをきっかけにディグが機能し始め、ウィングスパイクも効果的に決まり、シーソーゲームが展開される。中盤以降、聖愛は三上を中心に加点し、五商のミスも出て連続得点し、16-8で五商が2回目のタイムアウト。その後、聖愛は三上と相馬のスパイクで突き放し25-13で第1セットは聖愛が先取する。第2セットは、序盤聖愛のセッター境のブロックと身体能力をいかしたトスがワークにより聖愛ペースで試合が始まる。五商も田中、大坂のセンター攻撃が決まり、大坂のブロックも出て11対11の同点に追いつく。その後、聖愛はメンバーチェンジでリズムを取り戻し、聖愛の強弱をつけた攻撃により聖愛がリードを広げ20-14で五商が2回目のタイムアウト。終盤は聖愛帯川のスパイクが良い場面で決まり25-16で2セット目も聖愛が取る。第3セット序盤は、聖愛三上が連続でスパイクを決め聖愛が6対1でリードし五商1回目のタイムアウト。五商もキャプテン三和が連続でスパイクを決め追撃するが、要所で聖愛三上のスパイクが決まり、聖愛がリードを広げていく。両チームともディグが良く見ごたえのあるラリーが展開されるが、徐々に五商のミスが目立ちリードが広がっていく。五商も原田のウィングスパイクで加点していくが、聖愛は高いブロックを中心に相手に流れを渡さずサイド、ミドルを効果的に使い加点していく。終盤聖愛のミスもあったが、最後は松尾のライトスパイクが決まり25-16で聖愛が10年連続12回目の選手権出場を決めた。

戦評者 村元 直記